

新ふるさと総研 第1期活動報告

平成30年8月号で設立を紹介した「益城町新ふるさと総合研究所（新ふるさと総研）」が、第1期（全10回）の活動を終えましたので、その活動内容を報告します。

新ふるさと総研とは

民間や行政といったお互いの「立場」を越えて、「知識と経験」を持ち寄り、みんなで「新しいふるさとの姿」を描いていこう、という想いを持った人（研究員）の集まりです。

平成30年度は、第1期研究員として14人の研究員が集い、活動してきました。

新ふるさと総研の歩み

「震災から再び立ち上がっていくために、みんなが頭に思い描いている『ふるさとの姿』をイメージし、描き出すことで、もっと素敵なふるさとの姿を目指していきたい。それぞれが持っているイメージはもちろん違う。そのイメージをつないで、みんなが素敵と思う『新しいふるさとの姿』をとにかく言葉にして表現していく」

それは決して簡単ではありませんでした。考えて表現して、ぶつかってみたり、そしてつながったり。みんなで「新しいふるさとの姿」に一生懸命向き合ってきました。

みんなの「新しいふるさとの姿」に向けて、それぞれの日常の中で、みんなつながりながら「研究」をしてきました。



平成30年12月15日

「新ふるさと」の言葉化

みんなの頭の中にある「新しいふるさとの姿」を2時間ひたすら言葉に出し続けました。

平成30年9月17日

「新ふるさと」の姿を語る

5人の研究員が「自分が考える新しいふるさとの姿」をプレゼンテーション。

平成30年6月30日

新ふるさと総研誕生

研究員が初めて集結。町の「良いところがあるのにもったいない」と思うところを話し合いました。

平成31年1月14日

「新ふるさと」を形にする

前回の「言葉」を全部つないで、14通りの「新しいふるさとの姿」を描き出しました。

平成30年10月20日

一旦まとめてみる？

「提言」素案をまとめてみたが、その内容について、やる、やらないで議論。総研のあり方にモヤモヤ。

平成30年7月20日

お互いの価値観を知ろう

Ama-biZの内山隆うちやまたかしセンター長をゲストに迎えて交流会。おすすめの本も紹介しあいました。

平成31年2月16日

1つの「新ふるさと」の風景

14の姿から、1つの「みんながじっくりくる言葉」を紡ぎだしました。その姿に向けた「研究」も再スタート。

平成30年11月22日

「まとめる」から「ツナグ」へ

熱い議論の結果、「する」を焦らず、もっと研究をと再確認。「言葉を『まとめる』より『ツナグ』でいこう」との名言も。

平成30年8月18日

町の財産を活かすには

「町の良いところ」と「研究員の得意」を掛け算すると何ができるのか。パートナーを変えながら知恵を出し合いました。

